

山行報告書

通算山行NO	NO・135S	報告者	堀合喜義
年月日	'98年10月9日(金曜日)～	年月日	(土曜日)
山行名	秋山合宿 S隊	天候	晴れ
山名	天狗岳天狗尾根～奥穂高岳 (3,190m)		
この山のセールスポイント	天狗尾根・ジャンダルムに魅せられて!		
コース及びタイム	裾野8:30⇒中央道諏訪SA11:00 ⇒長野自動車道松本IC11:30 ⇒新穂高林道ゲート13:00/14:10 ~穂高平小屋14:40 ~白出小屋15:40 ~天狗尾根取付～テント場16:30		
標高差	△S ゲート ~T C1 ≐ 515 m	体力度	1・2・③・4・5・6
	▽T ≐ 1185 ~G ≐ 1700 m	技術度	1・2・③・4・5・6
走行距離	下土守 ~ ゲート = 300 km	展望度	1・2・③・4・5・6
参加者	CL 藤 隆 51 山は何処でも寝れる	調 八代 61	憧れのジャンダルムに胸一杯!
	SE 藤 紘 49 切り立った岩稜にワクワク	船 藤 49	溪声山色
	細 颯 49 テン泊で山から聞こえた声は何?	会員 5名・一般 0名・合計 5名	

快晴。無風。涼なるも陽射し強し。妻の車で裾野市役所に送ってもらう。正面玄関の駐車場では4~5人の幼稚園児が、立ち話に興じる若い母親達の回りで気だるそうに行儀よく立っていた。小生は少し離れた植木の影に陽射しを避けるようにリュックザック、登山靴を脇にして座り込む事にした。丸形大時計を見ながらSメンバーの集合を待っている内、園児の怪訝そうな表情と母親達の探るような視線に気が付き、少し躊躇うも園児達に『ニヤッ』と友好的な笑いを送ってみた。か警戒心をあおるだけの反応だった。送迎バスに園児達が乗り込み、母親達がそそくさと立ち去った後会長の車が現れ、その後市役所職員の出勤姿が目立って来た頃、加藤・小田と続いた。国道246でトレーラー事故があり遅れたとの事。



直ぐに出発。途中御殿場で高岡が同乗。全員が車中の人となった。国道246、138、東富士五湖道路、中央自動車道、長野自動車道と車は進む。会長・加藤が交替で運転。中列に高岡、後列の小田と小生は車窓からの風景を楽しみながら、缶ビールを飲み世間話に興じた。時折居眠りしながらも谷村SA、諏訪SA、松本IC流出と記録した。

会長から『行程が遅れている。車内で昼食』と指示。早速セブンイレブンの弁当にパковать。何時ものことながら高岡の漬物が非常に美味かった。国道158は一部工事渋滞。安房峠は新設のトンネルを利用し約3分で通過。蒲田川沿いを北上し途中、新穂高ロープ

出発の  
気持静かに  
月明り

ウェイで登山計画書を提出。林道ゲイトに午後1時着。小雨。涼。直ちに着替える。パッキング、計量後出発。蒲田川の瀬音を耳に、深まる秋の山色を目に、濡れた砂利の林道を足早に進む。山間の雲が厚くなり雨足が強くなる。穂高小屋に着く頃小雨に変わり白出小屋では雨が上がった。右に折れ樹々の合間の登山道に入り、白出沢沿いに登る。前を歩く会長の驚嘆の声。雨上がりの夕陽に映り照らされた、みずみずしい穂高の威容。歩を進め天狗尾根取付き着。晴。涼。明朝の登り口を確認後、テン泊、夕食の準備開始。

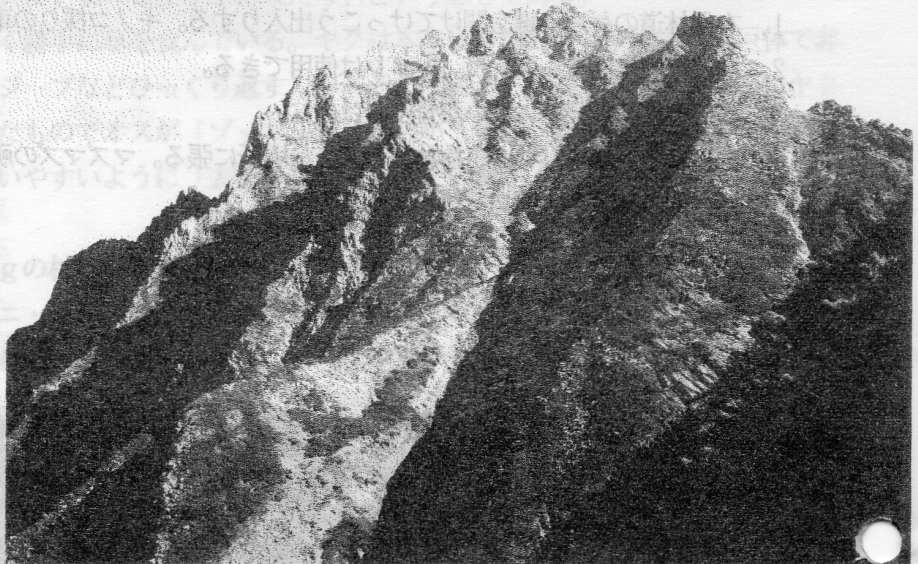
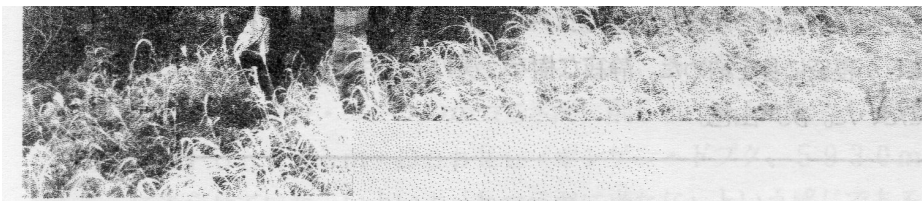
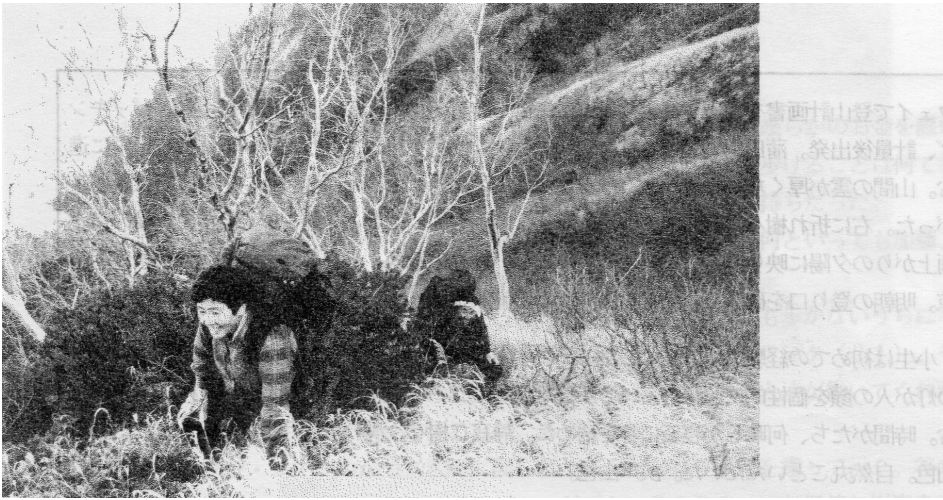
小生は初めての経験でマゴマゴした。テント内で夕食が始まり酒が身体に入った。ローソクの灯が人の顔を個性的に照らし、いつか観た映画のシーンを思いだした。酔いに任せ会話が弾む。時間がたち、何時しか寝袋に身を納めた。静寂な樹々、溪の声、月明りに照らされた山容山色。自然丸ごといただいた。溪声山色。

#### 追記（後藤）

1. 右俣林道のゲート鍵を開けてけっこう出入りする。キノコ採りの車もあった。
2. 白出小屋は閉まっていた。トイレは使用できる。
3. この時期、観光客は多いが登山者は少ない。
4. C1 はテン場でないが、樹林帯の適当な場所に張る。マズマズの所だった。
5. 夜、例の地震が2回あった。
6. 水は3ℓ+テルモス分上げた。
7. 小田のザックが小さかった。(60ℓ)



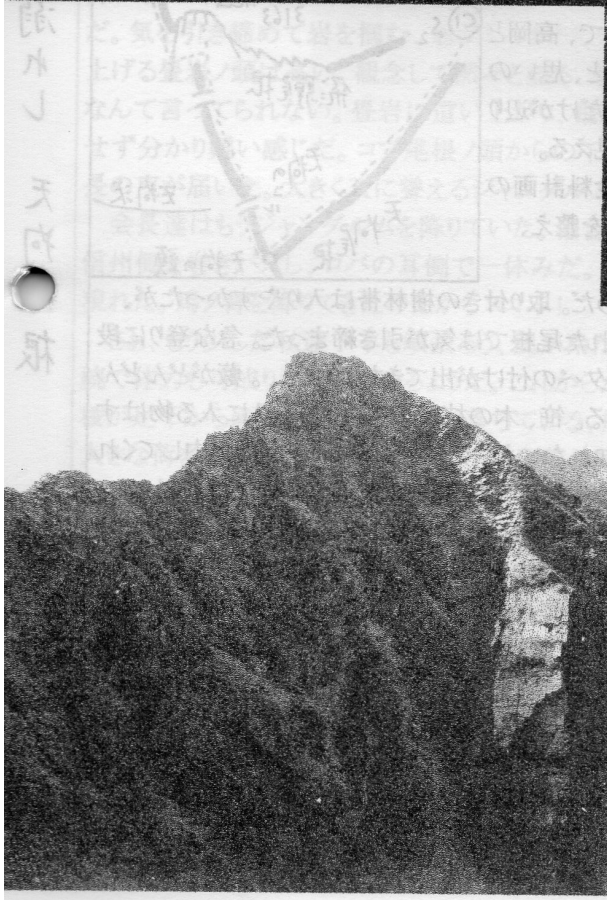
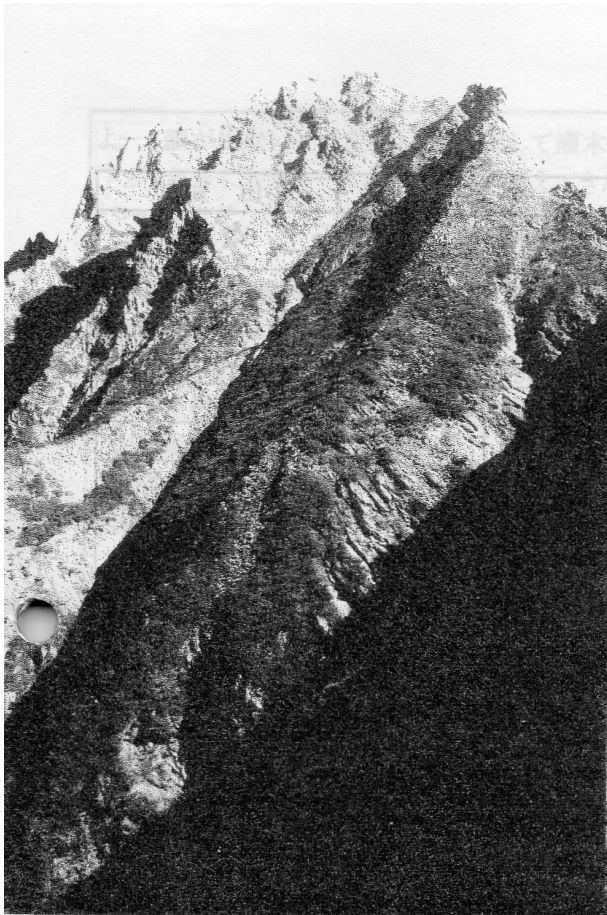
天狗尾根三千三百米付近にて



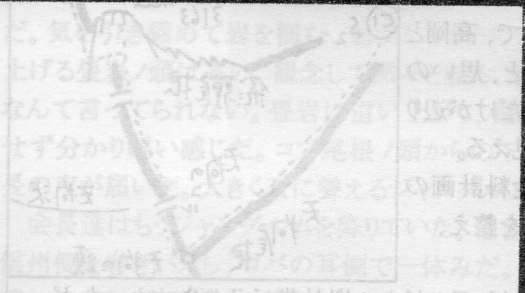
(上) 天狗尾根 2500m  
付近を登る高岡、  
堀合

(中) 天狗尾根から仰ぐ  
ジャングルム方面

(下) 一番高い所の右が  
西穂高岳、右の稜  
線は 97年秋登  
った西穂西尾根



て濃木帯を登れッ「見えないッ」「左だ左ッ」必死に左へ  
 (m0e1) 苗高辨英 山  
 林高峠天の了 山  
 山頂は000m未詳 山頂は000m未詳



- (上) 天狗尾根上部か  
      ジャングル方面
- (中) 天狗尾根上部  
      天狗の頭まで  
      とわすか
- (下) 間ノ岳と西穂

天狗  
尾

山名	奥穂高岳 (3, 190m)		報告者	小田 知典	
この山のポイント	厳しい天狗尾根から憧れのジャンダルム				
コタ	10月10日	起床3:00テント撤収出発4:40~天狗ノ頭11:40 (CL			
イ	晴れ	11:00) / 出発12:40~ジャンダルム14:00~奥穂高岳			
スム	(二日目)	16:00 (CL15:30) ~穂高山荘16:40 (CL16:00)			
標高差	△S天狗尾根取付~T奥穂高≒1490m		体力度	1 2 3 4 5 ⑥	
	▼		技術度	1 2 3 4 ⑤ 6	
走行距離	裾野市役所 ~ 新穂高ゲート≒300km		展望度	1 2 3 4 5 ⑥	
参加者	CL	後藤 隆徳	51	昨年以上の天狗尾根にしびれた。	
	SL	加藤 秀子	49	あこがれのジャンダルム、...	
	SL	高岡八千代	60	去年の西穂高西尾根以上の藪こぎでした。	
		堀合 喜義	50	本物の山登りを味わった。	
		小田 知典	49	天狗尾根は今までの集大成だね、...	
【 会員 5名 】					
<p>目が覚めるとテントの中でミノムシになって転がっていた。枯れ葉が積もった森の狭いテント場だったが、クッションも良く寝心地は悪くなかった。昨夕、お話が盛り上がり、眠り薬のお酒を頂き過ぎてまだ残っているのがよく分かる。今日は辛くなるぞ！「3時だぞ 起きるぞオ」会長はいつも元気だ。堀合はよく眠れただろうか？三つのミノムシの脱皮はすぐに終わり、美しい成虫になった。隣のテントで、高岡と加藤もお目覚めのようだ。まだ暗い森へ出てみると、思いのほか暖かい空気が襟元に潜り込んできた。沢の水音だけが辺りに響いていた。木々の間を見上げると、星がいっぱい見える。最高の山になるぞ！今日も加藤の、すばらしい食料計画のお世話になり、ハンバーグおじやをお代わりし、体調を整え、各々平均20kgの荷を担ぎ、いざ 天狗尾根！</p>					
<p>地形図を見ると、線が詰まっててキビシイ登りのようだ。取り付きの樹林帯は入りやすかったが、間もなく道無き藪こぎが始まった。左側がスパッと切れた尾根では気が引き締まった。急な登りに段々足が重くなり、息を整えるのが大変になってきた。夕べの付けが出てきたようだ、。藪がどんどん深くなり、ザックのトップが灌木の枝に掛かり苦勞する。笹、木の枝、草の根、岩、目に入る物はすべて握りしめ、必死に登る。これが本来の登山かも知れないね。テープ、ペイント等で案内してくれる山道と違い、「僕の前に道は無い、僕の後に道は出来る、..」って感じだね、 兎に角 苦しい。</p> <p>左に天狗沢、右に西穂沢いずれも切れ落ちている所を下り本稜を目指すコルに出た。上が見えない程急な登りだ。皆速い、高岡が速い、堀合と私の前が少しずつ開いてきた。浮き石が多く注意して進み、ホールドを探す大きな石がグラグラで簡単に動いてしまう。一時も気を抜けない、こんな山は初めてだ。アルプスに降る雪の重さで、太い幹の大きなハイマツが、急峻な山肌を下に向かい這っている。</p> <p>前の三人は見えなくなっていた。懸命に登りハイマツ帯に入るが、下に向かい伸びる木は進みにくく、右へ行くと沢へ切れている。これは困ったぞ！堀合とあれこれ試してみるが難しい。「オーイ」と呼んでみる、上から「オーイ、何処にいる、顔を出せエ」「大きなハイマツの中だ</p>					

ハイマツの海に溺れし 天狗の根

よー、顔が出ないッ」「左へトラバースして灌木帯を登れッ」「見えないッ」「左だ左ッ」 必死に左へ下がり気味にトラバースすると灌木が見えてきた。(後で聞くと、会長達も体を丸め、転がるようにトラバースしたようだ。)このハイマツ帯で時間と、沢山の体力を消耗してしまった。

「オーイ」「、、、」返事がないぞ、「オーイ」「、、、」登り出したようだ。置いてきぼりになっちゃった！ 親離れ子離れの試練の時か？ 私達二匹の子羊は、難しい山だから、焦らず、慎重に登ろうと話し合い森林限界を目指した。後ろの方から笠ヶ岳が子羊達を励ましている様だった。

ようやくなだらかな狭い岩場に出ると、大きく天狗ノ頭が、急な岩稜の上に聳えてるのが見えた。そして左にはジャンダルムから奥穂、右に間の岳、西穂、見事なギザギザの岩稜が天に突き出している。凄い迫力だ！ 気持ちが高揚する。堀合はなかなかタフだ、さあ、息を整え慎重にやせ尾根お進み、直登の岩峰に取り付くが、何と積み木を重ねた様な岩が多い、手を掛けると取れてくる。ホールド出来る所を静かに登るが息が切れる。堀合は岩もウマイ！

天狗ノ頭の頂上から、お父さん羊とお母さん、お姉さん羊が優しい目で見守ってくれているのが小さく見える「やっと来たな」って感じだね。この天狗尾根はとても難しく、体力の必要な登りだった。今日の奥穂までの行程で60%以上の力が天狗尾根に消費したように思う。やっと着いた天狗ノ頭(2909m) 堀合と固い握手、、、！ 会長達と40分の遅れだった。

肩で息をし、山菜おこわをむさぼりながら、今登ってきた尾根を見下ろし、グルーツと秋晴れの大パノラマを楽しむ。眼下には上高地が箱庭の様に見える。A隊が明日登る西穂高岳(2908m)は三角錐のきれいな山頂だった。北にはこれから登るコブ尾根ノ頭、吊尾根から前穂、明神岳の岩稜が大迫力で目に飛び込んできて、うっかりすると今までの苦勞を忘れそうになる。

「寒くなってきたから、ポチポチ先に行ってるよ。」会長、高岡、加藤は足取りも軽く天狗のコルへ降りていった。また子羊二匹になってしまった。さあ頑張っていこう！ これからは壁の様な岩の連続だ。気を引き締めて岩を掴む、岩がしっかりしている、鎖もある急な下りだった。天狗のコルから見上げる豊岩ノ頭は高い。観念して黙々と登る、岩のホールドが取れてグングン高度が上がる、コワイなんて言ってもらえない。豊岩に這い上がり、飛騨側のレンゼが陰しく、他の山よりマークもしっかりせず分かり難い感じだ。コブ尾根ノ頭からの下降で「難しい鎖場が二カ所あるから気を付けろ」会長の声が届いた。大きく天に聳えるジャンダルムを前に見て慎重に降りる。

会長達はもうジャンダルムを降りていた。堀合と私は、遅れているのでジャンダルムを10m程登り信州側を巻きパスし、ロバの耳側で一休みだ。その時、50歳半ばの男一人、女三人のパーティが現れた。馬ノ背を降りてきたのだからスゴイ！

さあ、もう少し私達子羊も頑張ろう、風が冷たくなってきた。ロバの耳も大きく感じた、岩登りの連続で体力も可成り消耗しているようだ。これから最後の難所、ナイフエッジの馬ノ背だ。やせた岩稜が足下から両側ともスパッと切れ落ちている、肝を冷やす登りだ。堀合は何の不安も感じさせず、大きな荷を背にしてゆっくり登っていく、奥穂の祠が見える。「堀さん、登りはあそこで終わりだよ」

ハードなコースだった。岩稜が連続するやせ尾根は高度感があり、浮き石、落石も多く、ルートは間違いやすい。起伏も激しく、机上では考えられない程の体力、注意力が必要だった。この様な経験はなかなか出来ず、良き指導者、仲間が居て出来るものと今更ながらに思う。感謝！

奥穂には人がいる、いっぱい居る。人が恋しくて笑顔で挨拶をした。祠にお参りしようと、ザックをおろし、歩くとバランスが取れずフラフラする。「、、、合掌」最後の下降を慎重に、会長達が待つ穂高岳山荘のテント場に向かう。潤沢岳から北穂、そして常念山脈が夕日に美しい。

小屋の辺りから加藤、高岡の元気な声が聞こえてきて、里に近づいた様なうれしさを感じたね。小屋に一足先に着き、戦友 堀合を迎え、感無量の握手！ お疲れさん、ありがとう、、、。

加藤が持ってきてくれたホットミルクが、胃袋にとっても新鮮だった。テントを張り、転がり込む。

うまそうなモツ鍋をつくってくれるが、今ひとつ食欲が出ない。疲れ過ぎなのだろうか？ ぱくぱく食べられる会長は、さすが鍛え方が違うのがよく分かる。今日は良く歩いた、半年分くらい歩いたような気がする。今、白出のコル(2983m)星が大きい、いっぱい光ってる、寒いし首が疲れてきた。

さあ、またミノムシになって転がろう！ 新しい穂高をありがとう、、、。

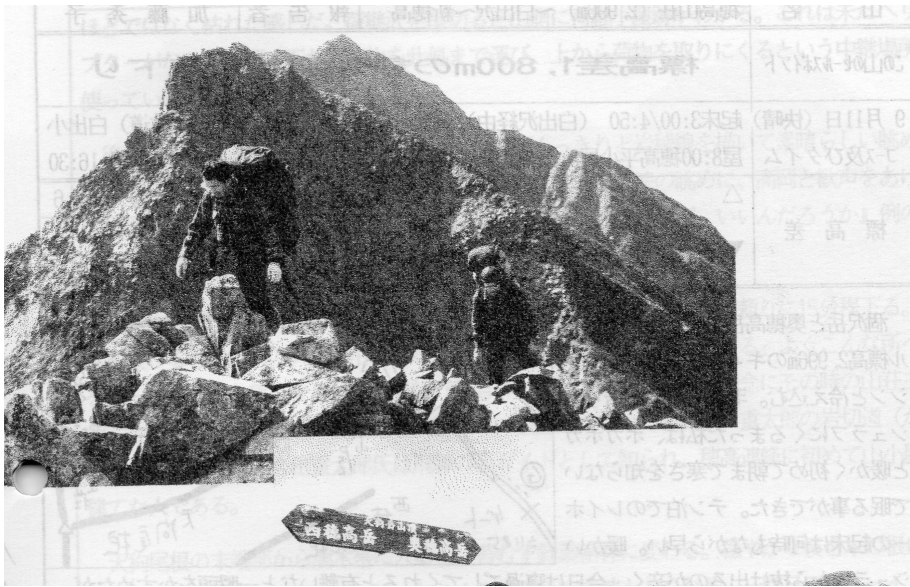
〈自然の記述〉累卵の岩場 天狗尾根のように触っただけでゴロゴロ落ちる、困難極まる岩場を形容する言葉だと会長に教わる。掴んで取れる岩は押して登るんだ、？ と。

注・1) 累卵(るいそん) = 卵をつみ重ねること、くずれやすく極める危険な状態のたとえ。



- 1) 天狗の頭  
に着いた  
バックは向岳  
と西穂。
- F) 天狗尾根上  
部を登る堀  
合、小田





(上) キツイ天狗尾根を登り切ると厳しい岩稜が続いていた

(中) 天狗の頭に全員集合

(下) つい最近の才! になった高岡の勇者、背中は20kg



山名	穂高山荘 (2,996m) ~ 白出沢 ~ 新穂高	報告者	加藤 秀子
この山のセールスポイント	標高差1,800mの急勾配を一気下り		
9月11日(快晴)コース及びタイム	起床3:00/4:50 (白出沢経由) 荷継小屋跡6:30 (岩切道~右俣林道) 白出小屋8:00穂高平小屋8:35/9:15 駐車場着9:30→深山荘9:35/11:00→裾野 16:30		
標高差	△ ~ = m	体力度	1・2・3・④・5・6
	▼穂高山荘 2,996 ~ 新穂高 1,185 = 1,811m	技術度	1・2・3・④・5・6
		展望度	1・2・3・4・⑤・6

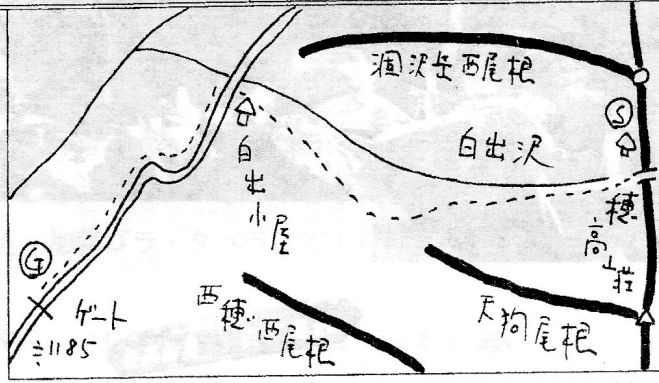
酒沢岳と奥穂高岳の鞍部、白出のコール標高2,996mのキャンプ場は夜中シンシンと冷え込む。毛布を山荘で借りてシュラフにくるまった私は、ポカポカと暖かく初めて朝まで寒さを知らないで眠る事ができた。テン泊でのレイホーの起床は何時もながら早い。暖かいシュラフから抜け出るのが辛く、今日は寝過ぎてくれると有難いなと一瞬頭をかすめたが、時間に正確なCLはキッチリと3時に起きた。

昨夜のキムチ鍋の残りのスープで雑炊を作る。食欲のなかった小田・堀合・高岡・加藤も流石に腹が減ったのか、酸い気のある雑炊が美味いと残さず鍋を平らげた。素早くテントを撤収し穂高山荘のトイレを借りて朝のお務めを済ませる。未だシーンと寝静まった山荘内は、夏場の様な賑わいは微塵もなく、人で足の踏み場もなくなる通路は閑散として人の気配もない。

今日は酒沢岳から白出沢出合いへ下る予定であったが、昨日の疲れが全員に残っている為、白出沢を下る事になった。とはいえ、飛驒側と奥穂高稜線を最短距離で結ぶこのルートは、新穂高まで標高差1,800mの急勾配を一気に下る厳しいコースだ。満天の星の見納めをし、穂高山荘の北端からヘッドランプの光芒を頼りに下り始める。一步踏み出した白出沢は両側から段々と岩稜が迫り、幽谷にみるみる吸い込まれていく感じだ。足元は崩壊の激しいガレ場で常にガラガラ崩れる音が耳元に入ってくる。足が不安定で非常に歩きづらい。CLが『此処は白出沢じゃなくて膝出沢(ひざだし)だ』と言っていたが全員大納得。

ガレ場を歩きつけない小田・堀合が少しずつ遅れ始めた。途中で堀合の荷を少しずつCL・小田・加藤で分ける。遅れる小田・堀合を心配する私にCLは『堀合にとって初めての今回の縦走はいい経験になる。経験を積み重ねて色々覚えていくものだ。堀合は大丈夫。心配ない。小田もしかりだ』と信頼しきっている。そうか。そう思って見ると何やら二人でクシャクシャと楽しそうに話ながら歩いている。足よりも口の方が忙しそうだ。ホッと安心した。

小気味よく高度を下げていると、セバ谷出合い付近から傾斜が緩み灌木帯になる。紅葉はさ



星仰ぎ 今日の凱歌に 乾杯す

ほどではなく枯れた感じだ。荷継沢を横切ると山側に荷継小屋跡がわかる。これは未だヘリコプターがなかった頃、下から荷物を此処まで運び、上から荷物を取りにくるという中継場所に使っていた所だという。

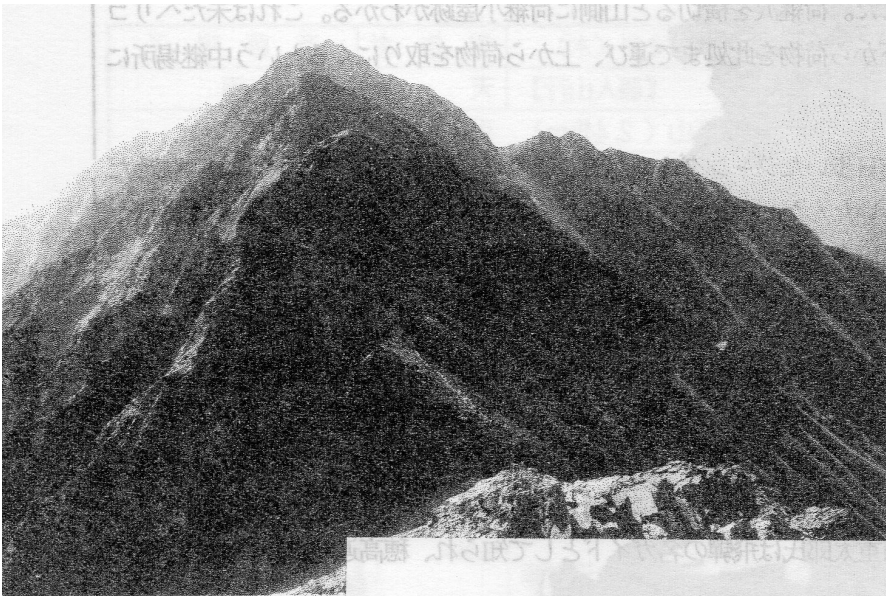
後ろを振り返ると、昨日歩いたジャンダルムがくっきりと岩稜線を描いて素晴らしい眺めだ。『すご〜い！あんな所歩いたんだ』つんと尖った岩の連続の眺めに、高岡と歓声をあげた。後続の小田・堀合を待ち記念撮影。『俺は凄い所を歩いてきたんだ。いいんだろうか』例の独特な表情で、ボソッと茶めっ気たっぷりに小田が呟く。全員感無量だ。

此の先は白出大滝を高巻く樹林帯の尾根を、木の根や丸太のハシゴを頼りに15分程下る。樹林を抜けると白出沢の沢筋に沿い、鎖やハシゴが連続する岩切道に変わる。よくこんな所へ道を作ったものだと感心するが、S48年7月吉日・穂高山荘創立50周年記念にその時の山荘主・故・今田重太郎氏が近辺の登山道を大掛かりに整備したものだという。重太郎の岩切道（かんきりどう）と呼ぶ。今田重太郎氏は飛驒の名ガイドとして知られ、穂高連峰に初めて山小屋を建てた人である。

天狗尾根の末端部から灌木帯に入ると、苔むす針葉樹林に変わる。穏やかな坂を木の根に気をつけながら下ると、蒲田川が近くなり1日目のテン泊地とぶつかる。一昨日の『オーイ！』とか弱げな声は何だったのだろうか。高岡と盛んに話合う。草木も眠る丑三つ時、テントからそんなに遠くもない所で『オーイ！』と2回も聞いた。確かに人の声であった。高岡がその声をCLと間違えて『もう起きる時間だ』と飛び起きたのでハッキリと覚えている。時計を見ると未だ2時。『おかしいね』と言いながらシュラフに入ったが、もう一度聞いたのである。そんな話を朝食時にすると、小田も堀合も聞いた！聞いた！と目をランランと輝かせ話が膨らみ喧々囂々（けんけんごうごう）。ひょっとして今だ浮かばれぬ遭難者の亡霊なのか。CLは『動物の声だよ』と事も無げに言った。未だに謎が謎を呼ぶ『オーイ！』の声の主は一体だれ？

白出小屋から穂高平避難小屋へ着く。店は開店。下山後の一番の楽しみラーメンをすすりながら小田・堀合を待つ。CLが小屋のオーナーと昔話を懐かしんでいる所へ2人が到着。もう一つの楽しみ、温泉と先を急ぎトンネル手前の深山荘(しんざんじょう)の露天風呂に立ち寄る。女風呂はこの間の地震で裏山が崩れ使用禁止。男風呂が混浴になっているので、そちらを利用して下さいと言われ一瞬迷う。眺めると確かに混浴だ。然しね〜と戸惑っていると向こうにもう一つあると面倒臭そうに言われる。行って見ると確かにオススメ場所ではなさそうだ。景色は良いがぬるくて湯が汚い。早めに上がってしまった。男風呂は『いい湯だった〜』と声を揃えて一致。

安房トンネル開通で時間が短縮され車は少しの渋滞にあったが、止まる程でもなくスムーズに走る。天狗尾根の厳しさ辛さに花が咲き、ジャンダルムの屹立した岩稜に征服した喜びを語る。初めての縦走を完登した堀合は感慨も一入だと言う。仕事の都合で縦走になかなか参加できない小田もよく頑張ったとCL。今月61歳になったばかりの高岡は論外。CLでさえも目標になると言わせる程の体力の持主である。足が揃った今回の山行は全て良しで終わった。



- (上) コフ尾根の頭付近から手前に天狗の頭、間ノ岳、大きく立派な西穂、右下に小さく堀合、小田が見える
- (中) コフ尾根の頭付近をゆく高岡
- (下) ジャンダルムをバックにゴッホの山



## 9 8 秋山合宿総括

CL: 後藤隆徳

1. 久し振りの午前発。渋滞で出発が40分遅れた。(加トー・小田)
2. 安房トンネル開通で大幅時間短縮。
3. 個人装備11kg位。堀合テルモス等重く3kgオーバーだったのでチェックし余分な物は省く。高岡もやや多かった。年齢と共に徹底した軽量化を計るべき。下山日、堀合の安全ベルトケースを発見。これも不要。
4. 1日目、標高1,700mにC1(キャンプワン)を設営。穂高山荘着時間を見ればこれは正解だった。
5. C1のゴミと余分な物をC1跡にデポ。これは下山時回収した。
6. 天狗尾根取り付きは明るいうちに確認。赤布あり。
7. C1夕食の加トー特製ハンバーグクリームソースきのこ煮は非常に美味だった。
8. C1就寝21:00。翌日起床3:00を考えると少し遅い。
9. C1は標高1,700mの樹林帯だったが、寝ごごちはマズマズ。
10. 天狗尾根は西穂沢側から非常に急な側壁を登って尾根に出たが、もっと下から尾根に入るべき。
11. 上部ハイマツ藪漕ぎから小田・堀合遅れだす。無線を渡し明瞭な指示をすべきだった。結局、天狗の頭で40'遅れ。(休憩入+1H20')
12. 以降全てのピッチで3名、2名に分かれる。穂高山荘で30'遅れでトータルでは3H以上位か。
13. 後発、山荘着で店開き。先発がテン場で場所を確保し待機しているので直行すべき。
14. 山荘で揚げたてのコロッケの差し入れ。うまかった。ビールも大缶500円は安い。水も無料でトイレもOK。
15. C2夕食、加トー・小田・高岡・堀合食えず。堀合夜中腹減ったと言った。
16. エスペースライト・フライが張網なくてうまくない。張網つける。
17. コンロ1台がやや不調。いろいろいじって直した。要点検。
18. 全体的には天狗尾根のバリエーションルートを登り、奥穂迄の縦走は内容のある充実した山行だった。S隊で初縦走の小田・堀合は得るものが多かったと思う。更に精進を重ねステップ・アップを目指して欲しい。また、高岡・加トーも女性でありながら相当の荷物を背負い歩いた。この経験を後に続く人に伝えてもらいたい。
19. ビバークも可と言ってた人が山荘で毛布を借りた。



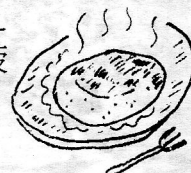
穂高山荘の毛布に寝たのは誰でしょう？

## 食料計画の総括

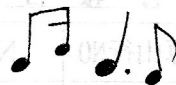
加藤秀子

1. 1日目行程3Hという事で少し手を掛けたハンバーグクリームソースきのこ煮を作ってみた。ボリュームたっぷり過ぎて御飯まで手がまわらず。ハンバーグが1ヶでよい。
2. 2日目キムチ鍋を用意したがきつい行程に食欲減退気味。果物は喜ばれた。
3. 一人用のアルファ米はいいようで使い勝手が悪い。ゴミも出るし、個数が嵩むので重い。値も高い。これは考えるべし。
4. 行動食も少なめで良い。味付けのアルファ米も寒くなると固くなるので評判悪し。やっぱり赤飯がよい？ 漬物があると食欲がわく。くるみあんパン等柔らかく甘い物が好評。総体的にゴミが出ないよう下ごしらえを充分考えて段取りしたが、アルファ米の空袋が出過ぎた。箸も自前にするべし。飲物は一日の疲れをとる為にも必携。又、食当番は同じ人だとメニューが変わりばえないのが難。

特製ハンバーグ  
美味!



天狗尾根・ジャンダルム 賛歌



雨務湯ききて  
一  
落石郷音く  
ジャンダルム

高岡八千代

天狗尾根・ジャンダルム・今年の秋山は厳しいだろうと覚悟はしていましたが、私の予想を遙に超える厳しい山行でした。最初から急登、藪漕ぎ、這松、岩と言葉では語れない山登り。  
又、天狗の頭からジャンダルム迄の岩稜、緊張の連続。憧れのジャンダルムに着いた時は嬉しさと、もうこんな厳しい山に挑戦する事は出来ないだろうという寂しさで、下山するのが惜しい気持ちでした。きっと今年の秋山は私にとって忘れられない山になるでしょう。厳しい山でしたが気持ちも身体も充実した山行でした。  
有難うございました。

堀合喜義

人の余り踏み入れない山。天狗尾根。厳しい風・雪・雨・陽に耐え抜き鍛え上げられた山。天狗尾根・・・。  
振じれて地を這う雑木、雑草の藪漕ぎは苦しく、崩れ易く容易に足場を与えない山肌は恐ろしい。未来の生の山に足を踏み入れ、自然の骨太さに肅然とする。呼吸を整え気持ちを落ち着かせ、慎重な一步、緊張の一步、確実な一步。一步を使い切る大事さを教えてくれた山。天狗尾根。未来、人間の好みや都合で山の姿、表情は出来上がったのではない。この全くの当たり前の事実を教えてくれた山。天狗尾根。  
有難う。溪声山色。

小田知典

天狗尾根はどんなだろう？かなりハードな藪漕ぎになると思っていたが、想像以上だった。山に対する少しの経験、体力、注意力、判断力、岩登りの基礎等、自分のもっているもの総てを天狗尾根にぶつけた。各々が足りなかった。体調が今一つの反省もあった。天狗ノ頭から奥穂の稜線は、厳しい岩稜なりにも眺望は最高で、それ程苦にもならなかった。非常に困難を感じた山程、何時の間にか素晴らしい思い出になってしまう。そして又もう一つの穂高も楽しみになってきます。

加藤秀子

天狗尾根・ジャンダルム、2万5千分の1の等高線の詰まり具合に、胸がワクワクする程興味をそそられた今回の山行は『此れが秋山合宿だ！！』と嬉しくなる程、充実したバリエーションルートだった。そして、読図と的確なルートファイディングがなければ入れない山の厳しさを教えられた山行でもある。自分自身を鍛練させてくれるバリエーションルートに開眼。苦しいけれど逆も又真なり。困難である程今が鍛練のチャンスと捉えて奮起したい。読図ができるよう頑張るゾッ！

CL・後藤隆徳

昨年に続き西穂高西面のバリエーション。レイホー創立4年で天狗尾根を、このパーティで登れるのは楽しみだった。このルートは読図、馬力、やぶこぎ、岩登りと、登山の総合力を要する。こんな経験で皆大きく成長する。  
特に連泊S隊初参加の小田・堀合には今後も期待 大 である。

10周年には、再びヒマラヤに行こうぜ！



秀子 ジャンダルムを後に